

# かえるくん

単 元	1000までの数	対象学年	2 年
ね ら い	1000までの数のよみ方、かき方を理解する。 10や100を単位とする数の相対的な見方に基づく加減計算ができる。		

## 1 準備するもの

(教師) 10円玉の模型, 100円玉の模型, かえるくん, もどるくん

(生徒) 10円玉の模型, 100円玉の模型

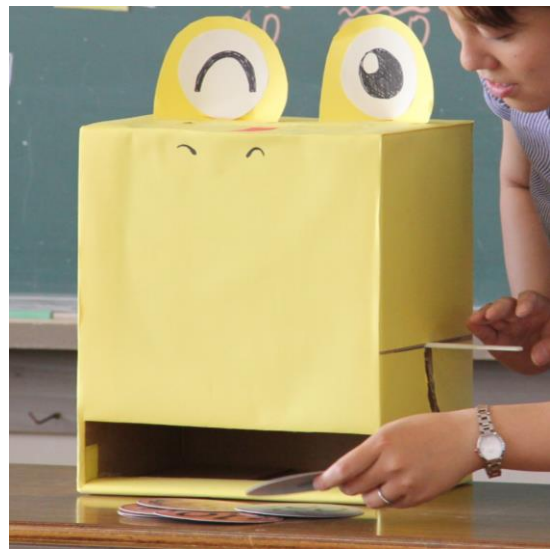
## 2 学習のしかた

### その1

- (1) 10を24個集めた数を考える。
  - ・10を100円玉に置き換えて考えられるように, 100円玉の模型を使う。
- (2) 10が10個で100になることを知る。
  - ・かえるくん, 100円玉を10枚入れると, 100円玉になることを見せる。
  - ・100円玉が10枚で, 1000円になることと関連付けて考えさせる。
- (3) 24を20と4に分けて考え, 240を求める。



かえるくんによる100円玉10枚が, 1000円玉1枚に代わる。



## その2

- (1) 360は10を何個集めた数かを考える。
  - ・100を100円玉に置き換えて考えられるように、100円玉の模型を使う。
- (2) 100は、10が10個集めた数であることを使い考える。
  - ・もどるくんは、100円玉を1枚入れると、10円玉10枚になることを見せる。
  - ・100円は10円玉が10枚になることと関連付けて考えさせる。
- (3) 360を300と60に分けて考え、36を求める。



## 3 学習上の留意点

- ・10が10個で100になることを、印象付けるために、かえるくんに10円玉を入れるとき、ゆっくりとみんなで10まで数えるようにする。
- ・同様に、もどるくんから出てきた10円玉も、みんなで10までかぞえるようにする。
- ・数の相対的な大きさの理解の定着を図るために、かえるくんともどるくんで行った模擬操作を板書でまとめる。その際に、かえるくん（黄色）ともどるくん（緑色）を絵と色の両方から、視覚的にも印象付けるようにする。

## 4 学習の成果

10円玉と100円玉を使った操作活動のまとめとして、視覚的に印象付けることができ、数の相対的な大きさを理解することができた。

同様に、100が10個集まった数が1000になる学習でも、かえるくんともどるくんを使い定着を図ることができた。